

二〇一九年度

史学・地理学会大会報告

二月七日(土)第一学舎五号館E六〇三教室において、二〇一九年度関西大学史学・地理学会大会が開催されました。大学院生・学部生が日頃の研究成果を発表しました。また、E六〇二教室において、ポスター発表を行いました。三組の大学院生・学部生が日頃の研究を、ポスター形式で発表しました。発表終了後に総会が開かれ、会計報告・編集委員会報告・事業報告が、承認されました。その後第一学舎食堂において、懇親会が開かれました。

【口頭発表】 E六〇三教室

古代日本における外来動物の考察 南澤 侑李
黒潮に洗われる室戸半島から房総半島にかけての海岸ビーチへの造礁サンゴ礁の帯状分布 中井 香月

【講演】 清代宮廷子ペット仏教僧の帰属意識

鎌倉禅林と北条貞時・高時政権

池尻 陽子 先生

近世日本の砂糖生産における讃岐と奄美

曾 昭駿

中国における南宋時代龍泉窯磁器の流通形態について(予察)

徐 雨辰

室戸世界ジオパークにおける地域産業の伝承と振興

王 琳婷

惣構の構造と機能の変化について

趙 欣鑫

——織豊期・近世初頭を中心として——

田中 詢弥

中国黄酒酒造業の歴史的背景と特性 ——紹興黄酒を事例に——

李 嘉文

【ポスター発表】 E六〇二教室

長野県伊那市老松場古墳群第一期調査の報告

北川咲子 池田 旭 奥田真奈 佐用海輝

中村真里絵 江口康太 松岡清乃

小木曾優佳 谷中 栞

長野県軽井沢町における地域活性化1

林 万葉 松本恵利奈 李 嘉敏 趙 欣鑫

赤澤祐介 荒川 望 西浦 慧 深谷早紀

赤阪怜美 川中悠生 秦遼太郎 兼子真直

藤丸絃生 松井幸一

長野県軽井沢町における地域活性化2

天野 奏 河内真矢 小西志門 西口輝一

富士元莉乃 秋田航志 猿渡凜太郎

島崎真平 瀬口知樹 辻 美里 廣田真子

藤井美来 水野真心 安平彩乃 安田えり

土屋 純

会員の発表論文目録

(二〇一八年一〇月―二〇一九年九月、前号までの欠号分を含む)

日本史

黒田 一 充

(共編著) 大阪歴史博物館・関西大学なにわ大阪研究センター『昭和の民俗と世相② 三村幸一が写した日本の風景』(清文堂出版)、二〇一八年二月
「神饌」、小川直之編『日本の食文化 1 食事と作法』(吉川弘文館)、二〇一八年二月

藤 岡 真 衣

「明治期以降における大阪の劇場建設と大工・中村儀右衛門―履歴書をてがかりとして―」、『関西大学なにわ大阪研究』第一号(関西大学なにわ大阪研究センター)、二〇一九年三月
「明治期の道頓堀と劇場―弁天座の建設をめぐる―」、『関西大学博物館紀要』第二五号(関西大学博物館)、二〇一九年三月

山 口 哲 史

「伊丹台地における行基の開発と四天王寺・太子信仰」、『絲海』第四四号(伊丹市文化財保存協会)、二〇一九年六月

西洋史

朝 治 啓 三

(翻訳)「講演 デイヴィッド・カーペンター」「マグナ・カルタ―その歴史

的意義、新視覚、新史料」及び、セミナー「ヘンリ三世治世 一二二六―一二七二年―」(翻訳と解説)、『関西大学文学論集』六八―四、二〇一九年

「バロンによる国制改革運動再考―アンジュー帝国史の視点から」、愛知大学人文社会学研究所研究報告論文集『帝国と魔女で読み解くヨーロッパ』、二〇一九年

ステイヴン・スレイター(朝治啓三監訳)『図説 紋章学事典』(創元社)、二〇一九年九月

嶋 中 博 章

(書評)「J・ダイングダム、大津留厚・小山啓子・石井大輔訳『ウィーンとヴェルサイユ ヨーロッパにおけるライバル宮廷 一五五〇―一七八〇』」、『西洋史学』第二六六号(日本西洋史学会)、二〇一八年二月

「歴史記述における史料の引用―瀨死の太陽王をめぐるダンジョー侯の証言」、篠田勝英・海老根龍介・辻川慶子編『引用の文学史―フランス中世から二〇世紀文学におけるライトの歴史』(水声社)、二〇一九年一月

(エッセイ)「境界線で出会い、境界線で道に迷う」、谷川稔・川島昭夫・南直人・金澤周作編著『越境する歴史家たちへ―近代社会史研究会』(一九八五―二〇〇八)からのオマージュ(ミネルヴァ書房)、二〇一九年六月

(学会動向)「歴史理論(二〇一八年の歴史学会―回顧と展望―)」、『史学雑誌』第一二八編第五号、二〇一九年五月

地理学・地域環境学

齋 藤 鮎 子

(書評)「中村周作 著『佐賀・酒と魚の文化地理―文化を核とする地域おこしへの提言―』」、『人文地理』第70巻4号(人文地理学会)、二〇一八年二月
「ハノイの農村工業專業村における家内工業の実態―フドー村のライスマードルを事例に―」、『史泉』第二二九号(関西大学史学・地理学会)、二〇一

九年一月

土屋 純

(共著)「国際異文化ビジネスの進展―日本から台湾に進出した「うどん」企業を事例に―」、『宮城学院女子大学・人文社会科学論叢』第28号、二〇一九年三月

「買い物弱者支援の手段として注目される共同売店」、『宮城学院女子大学・沖縄研究ノート』第28号、二〇一九年三月

松井 幸一

「琉球の村落計画における祭祀的理念」、『ジオグラフィカ千里』第一号(千里地理学会)、二〇一九年三月

「琉球の都市と村落―集落の形成思想をめぐって―」、木岡伸夫編『縁と(出会い)の空間へ』(萌書房)、二〇一九年

関西大学史学・地理学会 2018 年度 (平成 30 年度) 収支決算報告

(2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日)

	費 目	金 額	前年度比
収 入	前年度繰越	4,673,804	△363,878
	会費	221,500	△101,500
	バックナンバー売上	14,400	△5,100
	寄付	47,000	47,000
	抜刷代	0	0
	郵便代戻入	1,650	340
	利息	2	0
	収 入 合 計 (除く繰越金)	4,958,356 284,552	
支 出	『史泉』印刷費 (128 号)	292,356	△271,404
	史泉発送費	28,944	△27,198
	『史泉』封筒代 (角 3 号 3,000 部)	0	0
	学会封筒代 (長 3 号)	0	△14,040
	振込手数料	512	△352
	大会費補助	0	△8,932
	通信費	10,850	△2,732
	謝金	28,000	△21,700
	消耗品費	2,058	1,388
	日歴協会費 (3 年分)	15,000	15,000
	慶弔費	0	△21,600
	単年度支出	377,720	△351,570
	次年度への繰越	4,580,636	△71,568
	支 出 合 計	4,958,356	

2018 年度も収支決算は、上記の通り適正に行われたことを認めます。

2019 年 11 月 20 日 監査 黒田一充

2019 年 11 月 20 日 監査 伊藤信明